

令和 6 年度 第 8 回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和 6 年 12 月 13 日（金）8：30～9：30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：8 名

有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：2 名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）、山里紘美（沖縄県保健医療介護部健康長寿課主任）

陪 席：1 名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和 6 年度 第 7 回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料 1 に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

【協議事項】

1. 医師に対する医療者調査について

増田部会長より、資料 3 に基づき、医師用の質問票（案）について説明があった。削除する部分を青字、前回から変更した部分を赤字で表示しているとのことだった。

➤ 問 8 医師の専門分野の選択肢について

東委員より、外科医や麻酔で緩和の医師がいるのではないかと意見があった。協議の上、「20. 緩和」を追加することになった。また、複数回答ではなく、単一回答とする。

➤ 選択肢に「とても」を付けるかについて

平田委員より、「5. とてもそう思わない」という表現よりは「5. 全くそう思わない」が適切ではないかとの意見があった。東委員からは、ただでさえ端の選択肢を選ばない傾向がある中、「とても」を付けることでその傾向がより強くなるとの意見があったが、どちらでも間違いではないとのことだった。協議の上、選択肢に「とても」を付けないことになった。

- 問 10 の質問文について、文末を「～できていると思いますか?」「～えていますか?」どちらが適切かについて
東委員より、「常に」が入っているかどうかに関わらず、回答者は雰囲気でも回答することには変わりはない。「できている」が「常に」というニュアンスを含んでいるとしたら、「常に」は要らないかもしれない。「常に」を強調したいのであれば、「～できていると思いますか?」ではなく「～常にしていますか?」の方が適切であるとのことだった。協議の上、「常に」を省いて「～できていると思いますか?」に統一することになった。
- 問 24 の放射線に関する質問は、「質の高い最適な放射線治療を提供できていると思いますか?」とし、集学的治療に関する問いは、後日検討することになった。
- 問 27 のリハビリテーションに関する質問については、がんリハと汎用リハを分けた質問にするか、両方を含めた質問にするか、後日検討することになった。
- 問 26 の在宅医療に関する質問についても修正を検討することになった。
- 問 35 の「中部医療圏または南部医療圏」という表記を「中南部の専門医療機関」へ変更することになった。
- 問 36 の医療格差についての質問は、限定した質問に変更することになった。
- 問 24, 25, 26 の質の高い手術や治療ができていますか?について
東委員より、医師に調査すること自体、意味がないのではないかとの意見があった。回答者自身は「できている」と回答し、勤務している病院について問うた場合も「できている」と回答することがほとんどと考えられる。例えば、沖縄県全体について問うと、ある程度の意見を集めることができ、正直に答えやすいのではないか。がん対策の評価という意味では、ひとつの指標となるとのことだった。有賀委員より、評価指標に入っている質問は削除せずに、沖縄県を俯瞰するような形で質問を残した方がよいのではないかとの意見があった。それを受けて、個人、病院、県全体のどちらの視点にするか、事務局で検討することになった。

2. 看護師に対する医療者調査について

3. 薬剤師に対する医療者調査について

4. MSW に対する医療者調査について

増田部会長より、資料 4、5、6 に基づき、それぞれの質問票（案）について説明があった。

5. 歯科医師に対する医療者調査について

歯科医師に対する調査は行わないことになった。

6. その他

緩和ケア・在宅医療部会で、在宅療養支援診療所（98 件）と訪問看護ステーション（261 件）に対して調査を予定している。

令和6年度 第9回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和7年2月17日（月）17：00～18：00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：8名

有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、山里紘美（沖縄県保健医療介護部健康長寿課主任）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：2名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）

伊藤ゆり（大阪医科薬科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）

陪 席：1名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和6年度 第8回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. その他

特になし。

【協議事項】

1. 第3回医療者調査の現在までの回答状況と今後の対応について

増田部会長より、資料2に基づき、回答状況について報告があった。第2回医療者調査と比較すると、医師と看護師の回答率はそれぞれ約3分の1にとどまっており、この状況を改善するためにテコ入れが必要だと感じている。回答締切まで残り10日ほどしかないので、回答率を向上させる必要性があるとのことだった。

埴岡委員より、アンケートの対象となる分母を選定する際、全職員数で低い回答率を得るよりも、癌に限定された職員数で高い回答率を得た方がよいのではないかと提案があった。もちろん継続性がある調査なので、途中から変えられないが、癌に関わる職員に対してアプローチすることを検討してもよいのではないかと提案があった。これに対し、東委員からは埴岡委員の意見に同意し、癌の治療に携わる職員の回答割合が重要であるとのことだったが、癌

に限定することはおそらく難しいとのことだった。全職員にアプローチしつつ、特に癌に関わる方はぜひ回答してくださいと、回答を促すほうがよいのではとのことだった。

2. 「がん診療を行う医療施設一覧」掲載要件見直し事業の進捗状況について

増田部会長より、資料4に基づき、「がん診療を行う医療施設一覧」掲載要件見直し事業について説明があった。先日の協議会では遺伝性腫瘍を追加してはどうかと提案があり、これを含めて20のがん種または分野としてスタートしているとのことだった。

埴岡委員より、「がん診療を行う医療施設一覧」の情報を、例えば、全ての開業医や医師に知らせる仕組みなどがないことについて意見があった。患者さんが情報を得て医療機関を主体的に選ぶということだが、現実的には医療機関からの情報提供が患者さんに影響を与えて、委ねる形になりがちである。情報の非対称性が原因で、具体的には、大腸がんを治療する医療施設が8つに絞られた場合に、どのようにしてその施設に患者さんが集まるのか。10年経過しても症例が分散し続ける状況をどうしたらよいのかと問題提起があった。増田部会長からは、がんサポートハンドブックやホームページでの見せ方を工夫する必要があるとのことだった。

井岡委員より、主治療を行った医療機関でのカバー率をカウントしてはどうかと提案があった。カバー率が高まれば、効果があったと評価できるため、具体的な数値で確認することが望ましいとのことだった。これを受けて、伊佐委員より、今まであまりみてこなかった施設のカバー率について、数値を出してみるとのことだった。

広報について、井岡委員より、従来のホームページによる広報も必要だが、やはりSNSを通した広報もありなのではないかと提案があった。東委員からは、病院を紹介する医師の意識がどうなっているのか。やはり癌を見つけた医者が紹介する病院で決まると思われるが、その点に関して取り組んでいることについて質問があった。増田部会長は、この点についてのアプローチが十分ではなく、現在のところ、がんサポートハンドブックを配布する程度しか行っていない。紹介元になる病院（例えば内視鏡を行っている開業医など）に対して文書などでの情報提供が必要であるとのことだった。東委員より、詳細な文書ではなく、字を大きくした年に一枚の資料の配布が提案された。

最後に、埴岡委員より、施設集約の実効性を高めるための今回の議論が宙に浮かないように、がん診療連携協議会で引き取って、取り組んでもらいたいと要望があった。

3. 「第4次沖縄県がん対策推進計画(当協議会版)」の進捗状況について

時間の都合上、次回へ持ち越しになった。

4. その他

特になし。